AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:140.

食道癌手術後に肺炎を繰り返す高齢患者の在宅介護への調整
―退院調整における病棟看護師の役割―

小原貴子、笹田豊枝

食道癌手術後に肺炎を繰り返す高齢患者の在宅介護への調整
－退院調整における病棟看護師の役割―

7階東ナースステーション　　○小原　貴子、笹田　豊枝

【目的】

気管切開術後に誤飲性肺炎を繰り返し、譫妄と歩行困難から入院が長期化した80歳代高齢患者の在宅療養に向けての退院調整を行った。退院調整を円滑に行うための病棟看護師の役割を明らかにする。

【方法】

1） 対象：食道癌術後頸部リンパ節転移よる食道圧排にて気管切開術施行。化学療法を中断し、妻の介護にて在宅療養中に肺炎を発症し入院。入院中に夜間譫妄と歩行困難を伴った80歳代の高齢患者と妻および娘。退院調整に関わった医療スタッフ。

2） データ収集・分析方法：診療記録より、患者と妻および娘、医師、病棟看護師（以下PNS)、緩和ケアチーム（以下PCT)、理学療法士（以下RT)、ソーシャルワーカ（以下MSW)、薬剤師が退院調整に関わった記録を抽出し考察した。

3） 倫理的配慮：ご家族に研究目的、方法、個人情報の保護等について、書面と口頭で説明し同意を得た。

【結果】

患者は肺炎治癒後の外泊2日目で肺炎を再燃した。再発肺炎治癒後の主治医の方針は確認時未定であった。患者と家族の希望は自宅退院であり、PNSから主治医に、妻の気管内吸引の手技見直しと訪問看護の介入で自宅退院を目標にしたいと示した。

主治医から地域連携医療室のMSWに退院調整の依頼が行われたため、MSWとの連携を開始した。譫妄と歩行困難の症状コントロール目的でPCTの介入を依頼した。主治医、患者と妻から「歩行が出来れば自宅に帰る」と目標を確認した。RTに外泊に向けて妻と娘にベッドから車椅子等への移動介助の指導を依頼。自宅環境の聞き取りで、玄関前の5段の階段への対処方法を家族に説明した。自宅介護用品の搬入状況と経済的負担をMSWに確認後、2回目の外泊を実施。外泊中に問題になった譫妄に対して内服薬の調整と服薬指導を依頼。外泊月の退院の必要性と退院目標日を主治医伝え1週間後に自宅退院をした。

【結論】

退院調整における病棟看護師の役割は以下の3点が示唆された。

1．患者と家族の目標、主治医の方針を明確にすること。

2．患者と家族が在宅療養に自信が持てるまで症状をコントロールすること。

3．患者や家族へのケアや処置の指導と在宅介護を困難にしている問題を明らかにし、他職種との連携で解決すること。